

宝木だより

第2号
 発行 宝木地域づくり推進協議会
 宝木地域コミュニティセンター内
 (事務局)
 〒320 0065 宇都宮市駒生町3364-29
 (宝木小学校内)
 TEL・FAX 028-624-0531
 (印刷) DTP de co
(印字 北條仁男 書)

宝木コミュニティセンター改築へ

まちづくり懇談会開く

宝木地区まちづくり懇談会が、七月十八日地区住民六十名の参加をえて、二年ぶりに宝木コミュニティセンターで開催した。市からは佐藤市長をはじめ関係部課長が出席し、地区内の諸問題について話し合った。

そのなかで、市長からコミュニティセンターが来年度設計、平成二十一年度改築予定となっているとの説明があった。これまでの改築予定年次からは大幅に前倒しとなり、朗報といえる。また、玉木小学校

内にある留守家庭児童会が、本年度中に増設し、「子どもの家」に移行して子育て支援事業にも活用することも明らかになった。

そのほか、自治会と台成会の未加入世帯が多くなっている、加入促進策や、射撃場跡地の利用、地区内河川道路整備などについて意見交換を行った。



宝木地区老人クラブ

地区連絡協議会長

高橋勝也

宝木地区は六か所の単位クラブがあり、日々活発に活動しております。しかし老人クラブも年々それぞれの事情をかかえ、活動しにくくなっているのも実情です。集会所、広場あるいはクラブ自体の高齢化、後任の会長等、多くの悩みをかかえております。宇都連も老人クラブ減少の防止めに必死になっております。若い人(六十歳から加入可能)の加入がこれからの老人クラブの活性化の必要条件ではないか、そのためより地域密着を強め、多くの行事に参加するよう呼びかけて行きたいと考えております。

なお、老人クラブの活動としては、宇都連の各種行事への参加、地域活動として子供の登下校の防犯、交通安全、一人ぐらし老人に対する支援活動、地区の清掃行事への参加、その他単位クラブごとにサークル活動、旅行等、多様にわたっております。より活性化するため、皆様の参加を希望いたします。

名称	会長	電話番号	会員数
中丸長寿会	佐藤トミ	652-4531	35名
宝一会	中島貞吉	622-3023	32名
草宝会	安納麗江	622-2046	51名
山崎楽しむ会	川口賢一	652-0287	37名
下原長寿会	秋庭信一	622-7410	70名
西岡長寿会	高橋勝也	622-5851	47名

自治会めぐり ①

宝木一―一自治会

私達の住む宝木一―一地区

は戸祭の東宝木地区より分かれ、宝木小学校に隣接した東側で東西八、八キロメートル南北〇、二キロメートルと比較的小さな地区で、二二七世帯が南側に集中して居住しています。面積の約五〇%は専業農家によって耕作しており、当分の間は田園風景が眺められ、すばらしい環境の下で生活しています。

一―一地区の大きな行事として、毎年七月下旬に子供達が夏休みに入ってから行われる納涼祭があります。自成一の子供達と大人が一同に集い、地区内の方々が前日より準備したテントの中で涼を求めながら鮎の燻焼き・焼きそば・バーベキュー等を食べたり、テントの外ではスイカ割りや皆を笑わしたりして親睦を深めています。今年も天候に恵まれ、多数の参加者によって

盛大に開催されました。

また、スポーツも盛んで、特に中年の方で結成されている「タックス」という野球クラブがあります。このクラブは歴史が古く、二十数年前に結成され現在も活躍しており、各種大会で好成績を残しています。多年宝木地区ソフトボール大会では見事優勝しました。

忘れてはならない組織として中高年者会百数三十二名が加入している宝一会有り、ボランティア活動をしたり、一泊の温泉旅行・新年会等を開催し、これらを通して一層の親睦を深めています。

一―一平成十九年度役員

会長 岩上 光宏
副会長 伊勢 次雄

〃 森田 勇

会計 荒井 一郎

〃 〃 久古宇照一

〃 〃 佐藤 豊司

体育委員長 神山 徳雄

〃 〃 山崎 貞吉

育成会会長 鈴木 友子

婦人防火長 大木 悦子

リサイクル推進員

〃 〃 高木 秀和

民生委員 白井 久子



盛大に敬老会

残暑厳しい九月十六日(日)宝木地区敬老会がコンセーレ(青年会館)で盛大に行われた。今年も昭和八年三月以前に生まれた七十五歳以上の一、〇八六名が該当者で、戦中、戦後の激動と混乱の時代を乗り越え、平和と繁栄のわが国を築いてこられた功績に感謝と敬意を申しあげた式典のあと、各自治会から九組の茶人舞した歌、踊りや器楽演奏などの披露があり、二二〇名の出席者が楽しいひと時を過ごした。



子ども体育会 夏の一大イベント

小学生球技大会が、七月十五日（日）、低学年はころがしドッチボール、高学年はフットベースボールを、西が岡小学校にて行われました。

低学年のころがしドッチボールは、男女混合編成で、九町会十七チームの百五十二名の参加がありました。二ブロック制で戦い、各ブロック一位同十、二位同十でそれぞれ優勝、二位決定戦を行いました。優勝は二の二Aチーム、準優勝は東中丸チーム、三位は一の二Aチームでした。

高学年のフットベースボールは、男女別で男子八町会八チーム、女子六町会七チームの百五十三名の参加がありました。男女それぞれ二ブロックで戦い、各ブロック一位同十、二位同十で優勝、三位決定戦を行いました。男子優勝は宝木団地チーム、準優勝は一の二チーム、三位は西中丸チーム、女子優勝は宝木団地チーム、準優勝は一の三



チーム、三位は二の二チームでした。

この日、選手の小学生三百五名の他に役員、保護者、応援の人達、合わせて五百人からの参加がありました。

夏休み前の日曜日宝木地区内の小学生が西が岡小学校に集い、自会会の役員や保護者の皆さんの指導と支援を受けて、校庭や体育館で目を輝かせて夢中で飛び回る姿を、目の当たりにして、私たち大人は、子どもは地域の宝と実感し、この子どもたちを地域で育てることの大切さを感じることが出来たと感じます。

平成十九年度自治会対抗球技大会成績

開催日	種目	優勝	準優勝	3位
6月10日	婦人簡易バレーボール	2-1	1-2	2-2
6月17日	一般野球	2-2	2-1	1-3
6月17日	ソフトテニス	西中丸	2-1	1-2
7月1日	卓球	西中丸	1-2	2-1
7月1日	ソフトボール男子	1-1	西中丸	宝木団地
7月1日	ソフトボール女子	2-2	1-2	宝木団地
9月2日	バレーボール男子	2-2	2-1	宝木団地
9月2日	バレーボール女子	2-2	1-2	西中丸
10月7日	体育祭	2-2	2-1	宝木団地

●11月13日 ゴルフ大会（鶴カントリークラブ）が行われます。



9月3日 女子バレーボール（宝木中学校）



10月17日 体育祭（宝木小学校）

宝木まつり

開催へ

恒例の宝木まつりは、きたる十一月十一日（日）宝木小学校で開催します。

宝木まつりは、平成十三年の宝木地区心を育てる数自振興大会を出発点として、子どもの健全育成を主眼にコミュニティセンターの文化祭をも加味して、地区全体の交流と活性化を目的に致して七回目になります。

昨年は、好天に恵まれ、二千人の住民で賑わいました。

当日は、各自治会から屋台村へ出店するほか宝木中生徒の吹奏楽や演劇、地域の方々によるコーラス、会委などの披露、地区の方々の白幡の書や絵画など刀作の展示、子どものための映画会、ウォークラリーやゲームなど老いも若きも楽しめるイベントが盛りだくさんです。実行委員会では、ぜひご家族おそろいでお出でをお待ちしております。

宝木の歴史(上)



篠原喜三郎

宝木地区は、昭和二十九年までは国本村と城山村でありましたが、その歴史の概略を前駒生郵便局長の篠原喜三郎氏より寄稿していただきましたので、紹介します。

城山村の由来

宇都宮氏の始祖宗円は、近江国石山寺の僧であった。平安時代の後期にあたる天喜四年(一〇五六)に奥州で国司に従わなかった安倍頼時を討つるよう、朝廷から帝令が陸奥守源頼義に下された。頼義は翌年になって安倍頼時を討つことができたが、頼時の子、安倍貞任、宗任兄弟は頑強に抵抗したので、源頼義、兼家父子は一時敗れるほどの苦戦をおちいった。

やがて出羽の清原武則らの助けを受けて、源頼義、兼家父子は安倍貞任を殺し、宗任を降伏させて都に帰った。この動乱が起ると、宗円は朝敵調伏のため都から下野国に下って祈禱をこらした。その結果、奥州が平定されたのでその功績により宇都宮明神社務職に任じられ、宇都宮

姓を名のり、下野国の支配を任された。この時自然要害の地を選んで多気山に築城した。宇都宮国綱(一一五八―一六〇七)は北條氏の侵攻に対して自ら上だった武將を引き連れ多気山城に移り一大拠点として戦った。

宇都宮氏は、天正十八年(一五九〇)の豊臣秀吉の天下統一まで多気山城を本拠としたが、戦国が終わり平和が到来すると国綱は宇都宮城に本拠を戻した。

明治二十二年四月、町村制屋敷により、多気山に城があったことにより城山村と改称された。

駒生

駒生は、往時大領江新里郷に属し中丸村と称した。良駒(しんま)を産したので駒牛と改称し、上駒生、中駒牛、下

中丸

駒生の三つに分けた。慶長年間は松平越中守、元禄年間は戸田山城守の所領であった。

南北朝の動乱に活躍した宇都宮氏の九代公綱は、笠置山を陥し入れ、また天王寺に楠木正成と対陣、正成から「宇都宮旗下の紀清両党は坂東一の弓矢取りだ。」と褒められ、その武勇を讃えられた。

世渡りがうまい公綱は、都を追われた後醍醐天皇が吉野に遷幸されることを知り、紀清両党五百余騎を率いて吉野朝廷に馳せ参じ正四位少将に叙せられた。

建元二年(一三三七)八月、公綱は、紀清両党一千余騎を率いて北原頭家と共に鎌倉を攻め足利義満を陥し入れた。南北朝の動乱に活躍した公綱が駒馬言成を行った地が、

駒生高田原(注1)であり、これと同時に北原に出城を造築、この城が北原城(注2)である。

北原城は、宇都宮城と多気山城の中ほどにあったので中丸城といわれていたが、明治二十二年四月、町村制度の実施により宇中丸となった

(資料提供) 西中丸 田代頼興氏



(注1) 高田原は現在の「世渡の森」東一帯



(注2) 北原城は現在の「シジク」西の大地

加入して
ください!!

最近自治会や育成会が集合住宅を中心に未加入世帯が多くなっております。地域の活性化のため、加入の誘いをお願いします。また、老人会の会費や消防団員七少年、活動に支障がありますので、ぜひ応募されますようお話をあわせてお願いします。

編集後記

皆様のご協力を得て、第二期を何とか発行することができました。

読みごたえのある原稿も加わりより充実した内容となりました。これからもよろしくお願いたします。